

参考資料



- 【参考資料 1】平成 22 年度 開発教材一覧281
- 【参考資料 2】地域教材開発の手順（例）282
- 【参考資料 3】地域教材開発の作成手順：構成・推敲283
- 【参考資料 4】地域教材開発の作成手順（分野別）：構成・推敲 ..284



「平成 22 年度 開発教材」一覧

分野	資料名等	主 題	作成者	所属校
先人の伝記	「わたしが行かねば」 (医師 藤野昌言)	強い意志	内田真千代	府中市立上下南小学校
	「希望の花」 (川尻浦久蔵：種痘法)	希望をもって	木村 智子	呉市立三坂地小学校
	「和田吉左衛門物語 ー新たな地を求めてー」(割庄屋)	郷土愛	奥田 健	大竹市立小方小学校
	「武将茶人 ー上田宗箇ー」 (茶道)	個性の伸長	津秋 智子	廿日市市立宮園小学校
	「一筋の光を求めて」 (畝為吉：上条トンネル)	故郷の宝	福田ゆりえ	坂町立横浜小学校
	「夢とロマンを追い求めて ー彫刻家 圓鐔勝三ー」	理想の実現	松永美代子	尾道市立日比崎中学校
自然	「700 さいの大杉」 (吉田町指定天然記念物)	わたしがそだつ町	岩見 文彦	安芸高田市立吉田小学校
	「待月」 (日本画家 奥田元宋)	身近な自然の美しさ	小原 智穂	三次市立田幸小学校
	「時をおよぐジラ」(くじら化石)	自然と共に生きる喜び	石村 誠	庄原市立東小学校
	「モリアオガエルを守る」 (日本固有種 県天然記念物)	自然を大切に	松葉 伸恵	神石高原町立豊松小学校
	「恐羅漢」 (広島県最高峰の山)	自然に対する畏敬の念	今田富士男	安芸太田町立戸河内中学校
伝統と文化	「みぶの花田うえ」 (国指定：重要無形民俗文化財)	町のじまん	新川 靖	北広島町立八重東小学校
	「三枚の写真」 (国指定：町並み保存地区)	大切な郷土	溝上 孝弘	竹原市立竹原西小学校
	「百試千改の夢」 (西条の酒造り，三浦仙三郎)	郷土への思い	寺川 博人	東広島市立高屋西小学校
	「ジブリ絵職人のアニメ筆」 (熊野筆)	よりよいものをつくる	田中 敬子	熊野町立熊野第四小学校
	「大崎上島 東野の櫓伝馬」 (町指定：無形民俗文化財)	島の伝統を守る	村上 由里	大崎上島町立大崎上島中学校
	「日本一の琴づくり ーこだわりの伝統工芸士 藤田房彦ー」	あきらめない強さ	池田 明子	福山市立野々浜小学校
	「僕らの手で」(里めぐり音頭：府中町 盆踊り保存会継承)	地域の伝統を受け継ぐ	清野由美香	府中町立府中緑ヶ丘中学校
スポーツ	「ゆめにむかってー栗原恵選手のゆめー」 (バレーボール選手)	ゆめにむかって	中下 正美	江田島市立高田小学校
	「強いものは美しいー日本人初の金メダリスト 織田幹雄ー」(三段跳び選手)	夢を実現させるために	税所 正紀	海田町立海田小学校
	「今を一生懸命 ー日本女子体操を支えた池田敬子ー」	夢を追い求めて	平松 理恵	三原市立西小学校
	「心のたすきをつなぐ」 (世羅高校駅伝部)	集団の役割と責任の自覚	重森恵美子	世羅町立大田小学校
	「風を感じてー侍ハードラー為末大ー」 (400M ハードル選手)	生きる喜び	鍵山 員子	広島市立瀬野川中学校

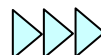
着想

構成・推敲

実施・改善

（１）素材の収集・選定

集めてみよう



（２）情報の収集

探してみよう



情報の収集方法

- 資料・パンフレット（市役所・町役場・公民館）
- 一般書籍・郷土資料（図書館・博物館・民俗資料館）
- 地域の関係者（インタビュー）
- 情報通信ネットワーク（インターネット・映像メディア）など

先人の伝記

自 然

伝統と文化

ス ポ ー ツ

題材例

（３）読み物資料の作成

書いてみよう

作成手順

① 主題やねらいを決定する（学習指導要領解説・心のノートの確認）

② 対象となる学年の発達の段階や特性を把握する

③ 登場人物や状況を設定する

④ 中心場面（山場）を決め、
大まかな起承転結を設定する

（４コマ場面絵の活用（p.18））

⑤ 場面分けをもとに文章化する

- 具体的な児童生徒の心の動き（内容の受けとめ）の想定
- 児童生徒の多様な価値観を引き出し、考えを深める工夫
- 児童生徒にとって分かりやすい文章の作成

⑥ 不要な文章や文言を削除する

	起	承	転	結
場面のイメージ絵				
絵の説明	平成15年6月、上巻の井上栄光さんが、田んぼのそばの森に、中学時代の先生に見てもらった、モリアオザミの卵である。その卵、井上さんは、毎日観察し、卵の周りに水たまりを確保する。	卵は、最終的に卵の15個から、53個に増える。	平成17年、雨不降のため卵がさきさきという結果に、地域の人も中がっかり。地域で、中山牧場産地産地産地に申請する、農産物の産地と自然環境の保全にモリアオザミの保護と観察、事業を行う。	地域の人間による事業の進展で、モリアオザミを育てる活動や農産物の産地と自然環境の保全に、卵の周りに水たまりを確保する。

4コマ場面絵

学習指導過程の構想
補助資料（「心のノート」など）

の検討

構成チェック票（p.17）を参考に検討

（４）授業の実施

実践してみよう

（５）体制・環境づくり

充実させよう

- ① 授業を踏まえた改善点の整理
- ② 道徳教育の全体計画及び道徳の時間の年間指導計画への位置づけ
- ③ 教材コーナーへの保存・ホームページ等による発信

【参考資料3】 地域教材開発の作成手順（一部抜粋：「構成・推敲」）

構成・推敲	① 主題やねらいを決定する	主題やねらいを決定する際には、小・中学校学習指導要領解説道徳編（以下解説）や「心のノート」を確認し、一定の道徳的価値の含まれるねらいを明確にすることが重要である。「心のノート」は、児童生徒が自ら道徳性を発展させる窓口となる道徳の内容、すなわち学習指導要領に示された道徳の内容を、対象となる学年の発達段階に応じてより具体化され、キーワードとして分かりやすく書き表されており参考となる。
	② 対象となる学年の発達の段階や特性等を把握する	児童生徒の実態に即した話題を提示していくためには、児童生徒の発達の段階に応じて地域（郷土）のとらえはどう広がっているのかや、地域の「ひと・もの・こと」をどの程度認識しているのか、今、何に興味・関心があるのか、どんなことで悩み、苦しんでいるのかなどの実態を把握しておく必要がある。
	③ 登場人物や状況を設定する	登場人物については、例えば、中心人物あるいは主人公（学習する児童生徒の実態に近い人物）、補助的な人物（中心人物を肯定的にあるいは否定的にゆさぶる人物）、理想的な人物（児童生徒の半歩先、一歩先の見方・考え方をもっている人物）の設定が考えられる。また、いつ、どこで、誰が出てくるのかなどの状況の設定に無理がないよう留意する必要がある。その際には、素材の背景など幅広い事前の資料研究を踏まえておく必要があることは言うまでもない。
	④ 中心場面（山場）を決め、大まかな起承転結を設定する	中心人物が葛藤したり、中心人物の道徳的価値が変容したりする中心場面（山場）を設定し、四コマ場面絵を活用するなどして、大まかな起承転結を考えておくことが大切である。その際、話の展開に飛躍があったり、前後でつじつまが合わない箇所があったりすることがないようにしなければならない。なお、感動資料等、必ずしもすべての資料が起承転結で構成されるわけではないことに留意する必要がある。
	⑤ 場面分けをもとに文章化する	○ 具体的な児童生徒の心の動き（内容の受け止め）の想定 児童生徒が資料を読んだときに、どのように考えるのか、どのような発言をするのかなどを具体的に思い描きながら、文章化していくことが必要である。 ○ 児童生徒の多様な価値観を引き出し、考えを深める工夫 中心人物が立ち止まって考える場面を設定したり、登場人物の心の動きを直接、記述せず、それを考える手がかりとして内面的な心の動きを表現する副詞や副詞句などを効果的に活用して表したりするなどの工夫が大切である。 ○ 児童生徒にとって分かりやすい文章の作成 発達の段階に対して文章の量が多すぎないか、一文の長さは適切か、主述にずれがないかなどに留意し、一読して資料場面が把握できるようにすることが必要である。
	⑥ 不要な場面や文言を削除する	一読して、児童生徒から道徳的価値の含まれるねらいにかかわる心の動きが引き出せるかなどを視点に、状況把握に必要な場面や文言以外を削除するとともに、登場人物の心の動きについては必要最小限とし、できるだけ単純な展開とすることが大切である。なお、複数で検討したり、少し時間をおいて読み直したりするとよい。

※「地域教材開発の手引」PP. 15-16 から

【参考資料4】 分野別教材開発のポイント（一部抜粋：「構成・推敲」）

先人の伝記	自然	伝統と文化	スポーツ
① 主題やねらいを決定する			
○ 先人が残した生き方の知恵など人間としてよりよく生きることの意味を深く考えることができるものに着目。 ・先人の生き方から伝えたいものを焦点化し、ねらいを明確にするよう留意したい。	○ ここでいう自然が「道徳の内容：3の視点」の自然であることに留意したい。 ・環境保全や生命尊重、畏敬の念などを取り扱う際には、児童生徒の発達の段階による内容の広がりを意識していきたい。 ・畏敬の念については、自然とのかかわりにおいて尊敬と畏怖の面が含まれているが、畏怖の側面をも生かしたものになるよう意識したい。	○ 昨今の現状として地域文化が育ちにくい状況にあることから、地方色をより大切にすることが求められる。 ・郷土への愛着や伝統と文化の継承・発展という視点は欠かすことができない。 ・伝統と文化を大切にすることをはぐくむといった視点で幅広く主題やねらいを考えていきたい。	○ 記録を出したからすばらしのではなく、その記録を出したに、その人物が行ったこと（真実に着目する必要がある。 ・不撓不屈になりやすいが、個性の伸長や友情等、多様な価値に触れさせたい。特に感謝という視点は大切にしたい。 ・小学校高学年以降では、理想主義的な思考を大切にしながら未来への夢や希望をはぐくめるよう留意したい。
② 対象となる学年の発達の段階や特性等を把握する			
○ 取り上げた人物についての各教科等における学習内容、児童生徒における知名度などが考えられる。 ・事前に伝記を読ませて、児童生徒がどこに注目するのかを把握することも一つの方法である。	○ 地域の自然のとらえ、これまでの自然体験の有無、今後の自然体験活動の予定などが考えられる。 ・自然のすばらしさをテーマに自由作文を書かせたり聞き取ったりして、自然のとらえを把握することも一つの方法である。	○ 児童生徒における伝統と文化についての意識、行事における体験の有無などが考えられる。 ・外部講師を招聘し伝統芸能等の実演を観察させたり体験させたりして、児童生徒の身近な感覚を把握することも一つの方法である。	○ 対象スポーツにおける体験の有無、種々スポーツに対する興味・関心などが考えられる。 ・児童生徒がアスリートをめざすための教材開発ではないことに留意しなければならない。 ・スポーツに対して苦手意識をもつ児童生徒もいることから、「体力づくり」の活動等を通して、苦手意識の中身を把握することも一つの方法である。
③ 登場人物や状況を設定する			
○ 史実に忠実であることが重要である。 ・内容が歴史的に古い場合は、社会状況、地理的条件、歴史的背景などを把握しておく必要がある。 ・先人の生き方の真意が伝わるような設定にする必要がある。	○ 人間と自然とのかかわりを多面的・多角的に表すことが望まれる。 ・事実や現実とかけ離れないようにすることに留意したい。	○ 児童生徒が理解し共感しやすい平易なものであることが望まれる。 ・事物ではなく人物を取り扱う場合は、伝統と文化に対する誇りと継承に焦点を当て、伝統と文化をクローズアップしたい。	○ 児童生徒が体験活動や日常生活等を振り返られるなど、児童生徒にとって身近な行為が望まれる。（例）スモールステップで目標をもって努力する姿などが考えられる。 ・人物の高い価値観や生き様に純粋に感動させる場合も効果的であることには留意しておきたい。
④ 中心場面（山場）を決め、大まかな起承転結を設定する			
○ 先人の人柄・人間的魅力が児童生徒に伝わるエピソードの挿入が求められる。	○ 自然の偉大さや生命の尊さなどが児童生徒に伝わるエピソードの挿入が求められる。	○ 伝統と文化の有形無形の美しさや郷土への誇り、愛情などが児童生徒に伝わるエピソードの挿入が求められる。	○ 人物のチャレンジ精神や力強い生き方、苦悩等などとともに、夢や希望が児童生徒に伝わるエピソードの挿入が求められる。

・人としての弱さを吐露する姿や生きる勇氣、知恵などを感じることができる場面設定などが必要である。 ・人としての弱さは、道徳的価値に対する弱さであり、安易な弱さでないことに留意したい。	・感情をもたない自然を題材とする場合には、自然と人、人と人とのかわりにおける登場人物の気持ちを通して自然を見ていく場面設定が必要である。	・主人公が、地域の伝統と文化にかかわる人物に出会い、今までもっていた地域の伝統と文化について、新しい視点を得たり、思いが変化したりする場面設定が必要である。	・目標（夢）ができ、それが達成されるまでのプロセスに共感できるような場面設定が必要である。
⑤ 場面分けをもとに文章化する			
○ 先人の人としての弱さ、迷い、強さ等の心の動きを行動や言葉によって表現することが大切である。 ・史実に忠実な記述に心がける。 ・児童生徒の発達の段階に応じて、歴史的な用語等、理解が難しい言葉には注釈をつけるなどの工夫が必要である。	○ 登場人物の気持ちを描く場合、自然への見方や考え方に起伏や変化をもたせて表現することが大切である。 ・自然の情景について比喻や副詞を効果的に使った描写を工夫する。 ・比較の対象となるものを取り上げることも考えられる。さらに、地名等の特別な読み方については、ふりがなを入れることが必要である。	○ 事実としての重みや迫力を効果的に生かして表現することが大切である。 ・事実を示すと同時に伝統と文化が継承されている証であることを表現する方法も考えられる。	○ スポーツの良さを象徴するものやスポーツの特質に関するものを盛り込んで表現することが大切である。 ・汗、涙、緊張感、勝敗、爽やかなどを主人公が見つめる風景で表現するといった工夫も考えられる。 ・スポーツ用語について、児童生徒の発達の段階や実態に応じてが難しい場合には、補足説明をえる必要がある。 ・必要に応じて年表を挿入していくことも考えられる。
⑥ 不要な場面や文言を削除する			
○ 先人の生い立ちや残した業績については、ねらいとする道徳的価値に迫る上で必要ないものは削除し、必要最小限とすることが大切である。	○ 登場人物の地域の自然に触れた時の思いやかかわっている方とのふれあいを通して感じた思いについて、直接描いている場合には、行動や周りの情景描写から考えさせるような言葉や文章の精選をしていくことが大切である。	○ 特に中心場面では、心情描写を削除し、児童生徒から多様な考えが引き出せるようにすることが必要である。	○ 取り上げたアスリートの実績や記録の結果の羅列にならないように留意することが大切である。ねらいに迫るために必要なもの以外は思いきって削除したい。

※「地域教材開発の手引」PP. 21-22, 39-40, 55-56, 71-72 から